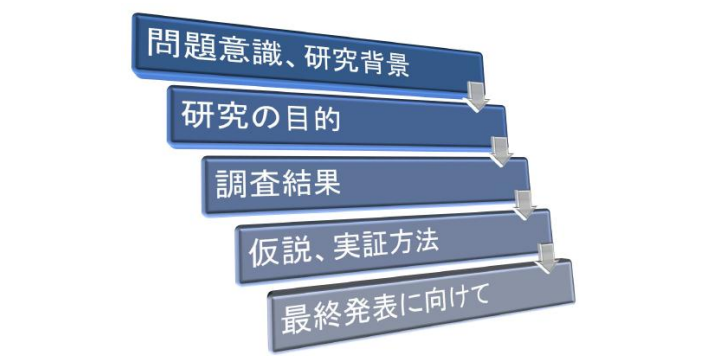


◆【中間発表フローチャート】



1、 問題意識、研究背景

◆平成 24 年度学生生活実態調査

(筑波大学学群生約 3173 人対象)より

○「現在の住まい」において

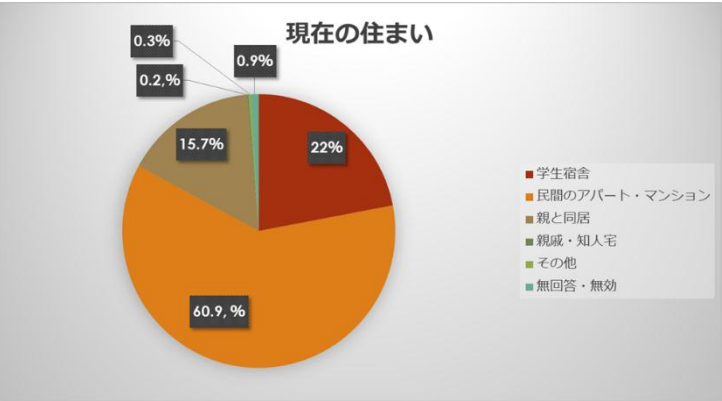


図 1－1、「現在の住まい」

この中でつくば市民、かつ土地勘がありそうな学生は「親と同居」ぐらいだと考えられる。

筑波大生は大半が入学した当初は土地勘のない県外からの学生である。

○「整備・充実してほしい施設等」において「IT 環境」と答えた割合は 17.4%

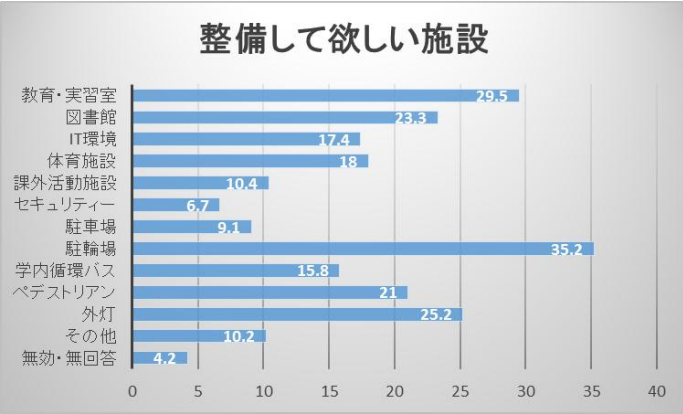


図 1－2、「整備・充実してほしい施設」

○「情報取得源について」に「支援室の掲示板」と答えた割合は 42.3%、「TWINS の掲示板」と答えた割合は 6.1%



図 1－3、「情報取得源について」

○自由記述欄

- ・インターネットを使つての情報伝達と申請等を求める要望が多い。
- ・**掲示板の電子化**と内容のメール配信などの要望が出ている。
- ・休講や集中講義などの情報を通達するための電子システムやウェブリソース(TWINS、メール、SNS など)の積極的活用の要望

○気づいたこと

◆？？？

各学類の学生が他の学類の授業をどれだけ取っているかといったデータをエリアごとに統合して整理した。

他学授業履修者数	開設エリア	履修者所属組織(人)						
		1学	2学	3学	春日	医学	体芸	合計
	1学		231	237	26	6	46	546
	2学	127		85	63	0	30	305
	3学	54	43		9	3	25	134
	春日	4	10	3		0	3	20
	医学	3	50	11	15		10	89
	体芸	18	47	110	18	261		454
合計		206	381	446	131	270	114	1548

図 1－4、？？？エリアごとに統合

医学に体芸エリアの履修者が多いのは、看護学類の学生が体専の授業を取っているため、などが分かる。

⇒利用人数が多い所はそれだけ掲示板を利用する確率が

高いと言える。

これらから

「筑波大学では Web 掲示の需要が高い」

という予想を立てた！

さらに筑波大学には「広いキャンパスを持つ」という背景

⇒それだけ皆ムダな移動が多い。

⇒Web 掲示が発達すれば、ムダな移動は減る！？

2、 研究の目的

今回、私たちの班の研究目的は、

「筑波大学の Web 掲示システムを発展させることで、筑波大生が日常行っているムダな移動を減らす！！」

ことである。

3、 調査結果

これを実行するために行うべき調査は

- ・筑波大学の掲示システムの現状調査
- ・筑波大生に対する Web 掲示への需要確認
- ・筑波大学の・・・を解消出来る方法の模索
- ・実際 E だけムダな移動をしているか量的調査

◆筑波大学の掲示板、Web の現状調査

○各エリアの掲示板（4 月 26 日～）

掲示板調査でわかったこと

- ・共通科目、休講情報、集中授業、教職関係、留学関係など、需要の高い掲示内容は全ての掲示板で貼られているが、2 学の TOEFL 情報や春日の目安箱など、そのエリアならではの情報も貼られていた。

- ・電子掲示板が確認できたのは、3 学だけ。

- ・1 つの場所に様々な情報が貼られていて、古い情報が埋もれていたり、他の情報が混ざっていたりして、見づらさを感じる。

◆システム情報工学支援室へのヒアリング調査

○システム情報工学支援室：？さん（5 月 10 日）

掲示板の現状を詳しく知るために、ヒアリング調査は三学の支援室に対してのみ行なった。以下はその調査の結果である。

・掲示作業は、学群の場合、三学にある学群からの情報は、三学の支援室へ届けられ三学の支援室がその情報を他学の支援室へ連絡、他学の支援室はその情報を紙に印刷し、各掲示板に貼る。支援室内には学群担当の他に大学院担当、学生支援担当があり、それぞれが独立して同様の掲示作業している。

・履修要覧「修学上の諸手続き」の「大学から学生への通知、連絡事項は、すべて所属学群・学類、関係学群等の所定の掲示板に提示します」という文言より、掲示を紙で行なうことが大学の方針であると解釈しているため、現在のような「紙」中心の掲示システムになっている。

・電子掲示板は、入れ替わりの激しい情報や大きなサイズで表示すべき情報を掲示するためにある。

・掲示システムの改革については教育推進部が担当しており、支援室では把握されていない。

◆学生対象のプレアンケート調査

○班員の所属するサークルや学類（5 月 3 日～5 月 7 日）

■概要

○目的

掲示板のインターネット上での公開に際して、各エリアに所属する学生がどのように掲示板を利用しているかの実態を予備的に調査。また、その結果を踏まえてどのような需要や問題点があるかを発見する。

○方法

各班員が所属する部会、サークルの学生に対しアンケートを行い、様々なエリアに所属する学生の掲示板利用の実態を調査。

○有効回答数

102 件（設問によって誤差あり）

■結果

・掲示板の項目ごとの認知度、利用頻度の調査

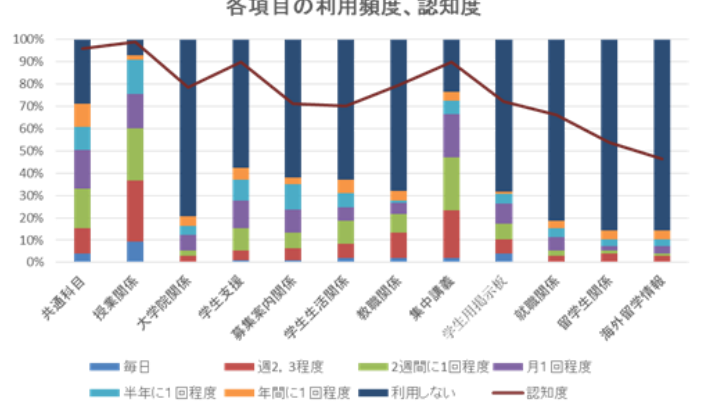


図 3－1、掲示板の項目ごとの利用頻度、認知度

(折れ線が認知度)

- 現在の掲示板に対する不満の調査

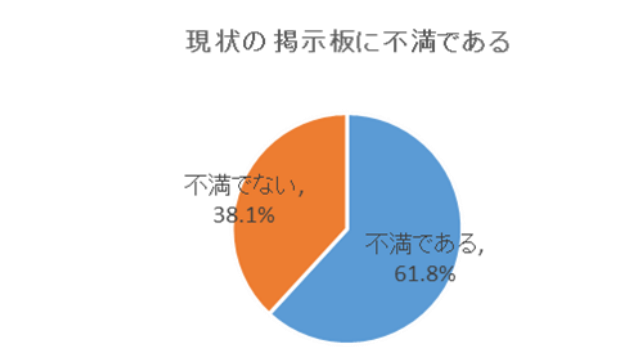


図 3-2、掲示板に不満を感じる人の割合

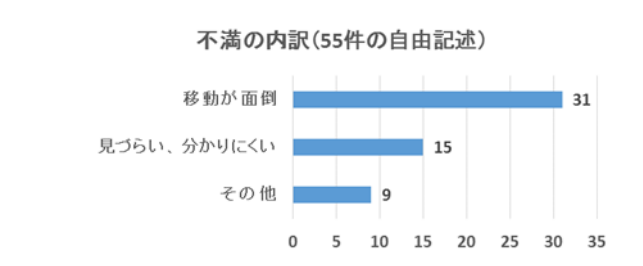


図 3-3、不満の内容内訳

- 改善策についての調査

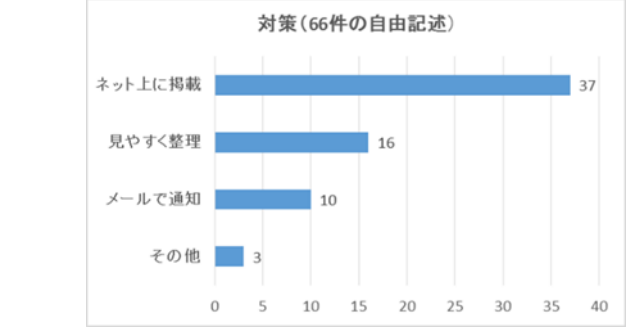


図 3-4、学生が考える改善策

- 掲示板の Web 化に対する需要の調査

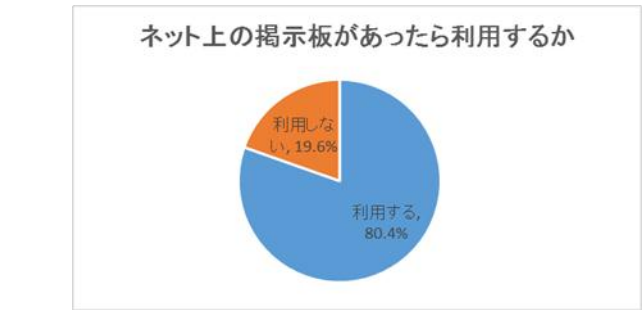


図 3-5、Web 掲示を利用したいと思う人の割合

■分析

- 認知度、利用頻度がともに高い項目は、情報の重要度、需要ともに高いものであると言える(「授業関係」、「集中講義」等)。
- 逆に認知度、利用頻度がどちらか、または両方が低い項目は、特定の学生にとっては重要な情報である。また掲示場所に問題があり目に付きにくい可能性もある。
- 現状の掲示板に対し不満を持っている学生は多く、その中

で改善策として掲示板のネット上掲載を挙げた学生は多数。

- 掲示板をネットからチェックできるとしたら使うという学生も非常に割合は高い。

掲示板のネット化に対してある程度の需要は見込めるといえる。

◆各支援室の位置情報

○各エリアの支援室 (5 月 15 日)

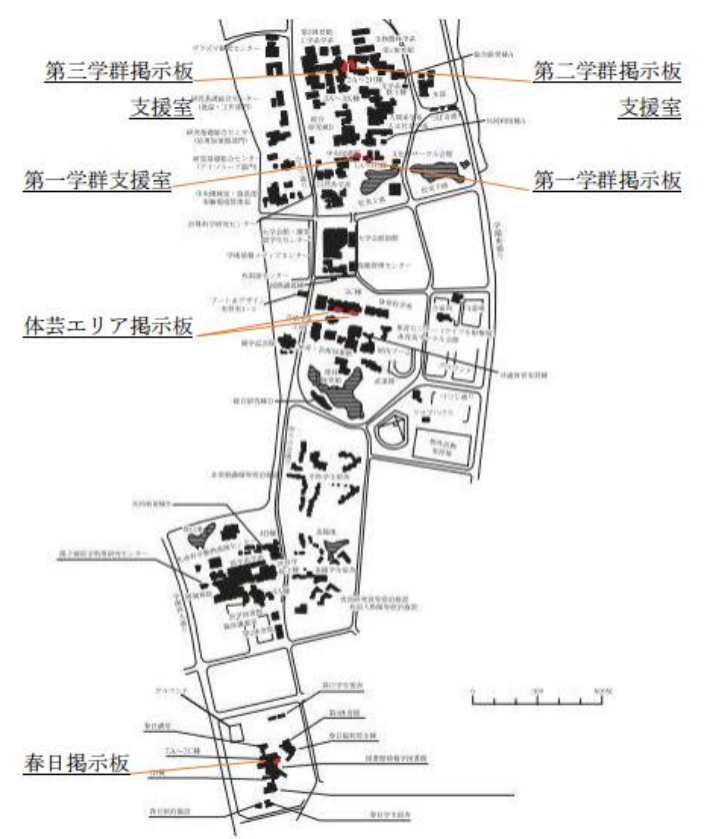


図 3-6、各エリアの支援室の場所

◆他大学の事例調査

○Web での調査 (4 月 19 日～)

今までの経緯

スマートキャンパスとして筑波大学の現状を考え、さまざまな問題点を挙げた。

その中でも私たちが興味を持ったのは「アプリ化」である。筑波大学は広いので、情報がなかなか伝わりにくい。たとえば掲示板情報である。広い学内の特定の場所にある掲示板には集中講義や奨学金など大切な情報がたくさん掲示されている。しかし、更新日時は不定期であり、学群によって載っている情報もムラがある。だから自分の欲しい情報を確実に得るには、現在の掲示板のシステムは効率が良いとは言えない。

このような問題を「アプリ化」で解決することによってスマートキャンパスになるのではないだろうか。

そこで私たちは「アプリ化」の事例について調べた。する

と福岡大学の「FU ナビ 2011」というものが出てきた。

これは福岡大学の学生が自分たちのために開発した

アプリであり、右の図のようになっている。

福岡大学と筑波大学の共通点

として

- ① 県外からの学生が多い
- ② 敷地が広い

そこで私たちはこれを筑波大学に応用できないだろうか

と考えた。しかし、

- ① 個人情報の流出、
- ② 誰が管理するか

このような問題点から、アプリ化は難しいという結論に至った。

◆Web 化に対するメリット、デメリット

○ヒアリング、プレアンケートを元に分析 (5 月 15 日)

実際に Web 掲示を発展させたとき、どのようなメリット、デメリットが生じるのかヒアリング調査、プレアンケート調査の結果より支援室(学校) 学生の両方の立場から分析した。

■支援室(学校) 側にとって

[メリット]

- ・紙の掲示より掲示作業が楽である

- ・紙資源の節約 …

[デメリット]

- ・Web 上の個人情報の取り扱い
- ・サーバーメンテナンスなどの影響
- ・支援室の仕事量の増加 …

■学生側にとって

[メリット]

- ・掲示板まで見に行く手間が省ける

- ・掲示情報を見逃しにくくなる …

[デメリット]

- ・紙掲示に比べて情報の信頼性に欠ける …

■デメリットの解決策

デメリットとしてはやはり Web 上における情報の安全性や、支援室の負担の拡大などが目立った。

しかし、安全性に関してはログイン制を適用したり、簡単な Web システムを考案したりすることによって支援室の負担も減らすことが出来るだろう。

そのためには Web 掲示環境が発展している他大学にヒアリングに行くなどして方法を探ることや大学教育推進部へのヒアリング調査によって Web 掲示への理解を深める必要がある。

4、 仮説、実証方法

仮説：筑波大学の特長に合った Web 掲示システムを

考案しそれを筑波大生に適用したシミュレーションを行うことで、筑波大生の無駄な移動が

減るのでは

ないだろうか？

実証方法：

1. 考案した Web 掲示システムが実現した際、掲示板利用者の行動にどのような変化が出るかアンケート形式などで確かめる(結果は単純なものにはなるだろうけど、システムの内容を細かく提示(複数でも可))
2. 変化した具体的距離を測定する。

5、 最終発表に向けて

◆今後やるべきこと

- ・「大学教育推進部」へのヒアリング
- ・更なるアンケート調査により、学生データをより信頼できるものに。
- ・さらに深く他大学の調査
- ・移動時間計測

6、 参考文献

- ・平成 24 年度筑波大学学生生活実態調査
- ・先生からもらったやつ



図 3-7、FU ナビ 2011